

理事長 挨拶

理事長 真鍋井蛙

「海上明月出」印影▽



会員の皆様におかれましては、筆硯、印刀益々御清栄のことと思います。さて来年二〇二四年で日本篆刻展は四十回の記念展を迎え、特別展示として河西笛洲・北村春歩他関西の印人展を企画しています。先日準備のために北村家や関係のあった人々の蔵品を拝見していますと梅舒適先生との関係がかなり密接であったことわかってまいりました。日展特選の「海上明月出」などは梅先生が「北村さんが出品額を作ってくれたんや」といつておられたのを思い出します。これを機に日本篆刻家協会の創設者である先生の作品、エピソード等々を協会のホームページや広報誌を通じて内外に紹介していきたいと思えます。調査や原稿などをお願いするかもしれませんが協会の発展の為に何卒よろしくお願い申し上げます。

中央研究会を終えて

常務理事 井後雅堂

コロナの影響で、計画して断念を繰り返して、二年間開催できなかった中央研究会。是非今年度こそはという話があり、宿泊を伴わない、日帰りで行うこととなった。まずは会場探しから始まったが、比較的広くて駅から近い場所を見つけることができた。

当日の内容は、多くの先生方にご尽力いただき、非常に内容のある、充実した一日となった。

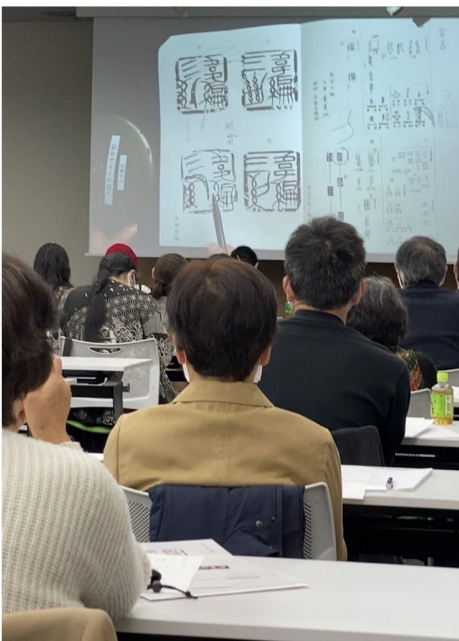
尾崎会長からは『中国の古璽印（戦国・秦・漢を中心として）』と題し、今年度の日本篆刻展特別陳列について講話があった。これまで古印を集めて来られた苦勞話に始まり、製作への活用等、古璽の鑑賞方法について教えていただいた。

真鍋理事長と古溝常務理事からは、読売書法展を振り返り、側款の貼付位置、書き込みの位置等、作品の仕上げに至るまでの細部への留意するポイントを教えていただいた。

午後からは、井谷常任顧問と真鍋理事長より、『大印範例（公募展に向けて）』と題し、印稿の作り方や字書の選び方、文字の選び方等、実際に印を作る際の基本から発展までを分かりやすく説明いただいた。事前に印稿を提出していただいた方には、直接役員の先生方からの指導もあり、貴重な経験となった。

また、側款の採り方の動画や松本常務理事・北田常務理事による押印の実演があり、押印の様々な方法を知ることができ、また今後は自分でも取り入れてみようという声も聞かれた。会員同士、お互いの技法や技術を知ることは自身の制作にも大変有益だと感じている。

従来とは形を変えて開催した初めての中央研究会であったが、参加者から好評を頂戴することができた。これも一四〇人を超える参加者の皆様のご協力あつたのことに感謝し、是非とも次回研究会へも参加を賜りたく思う。



中央研究会の様子▷

総会新年会報告

常務理事 松本雅至

令和五年度総会が一月八日にアートホテル大阪ベイタワーで開催され、新型コロナウイルス感染症渦中ではあったが、役員・会員計一一一人が参加した。

総会に先立ち、一月八日十一時に企画委員会、十三時から理事会が開催された。総会は十四時三十分から松本雅至常務理事の司会で進行、真鍋井蛙理事長の年頭挨拶でスタートした。真鍋理事長には、さらに議長として議事進行をお願いし、令和四年度事業報告、同決算報告、同会計監査報告、令和五年度事業計画案、同予算案、同役員昇格案が提案され、いずれも原案通り承認された。

また諸連絡において、第九回日展の入選者十三人を紹介、新入選三人を代表して古野燕安女史が謝辞を述べられた。

その後、十五時三十分から新年会が黒田玉洲代表理事の司会で進められた。

真鍋理事長挨拶の後、尾崎蒼石会長の音頭で乾杯し、各自テーブルに用意されたお弁当に舌鼓を打った。途中、余興として東尾高岳常務理事の進行でジャンケン大会を行い、景品として勝者には役員の先生方の作品が贈呈された。そして最後に、井谷五雲常任顧問による挨拶で閉会となった。感染症対策の中で会話や席の移動についての制限はあったが、久しぶりに和やかな新年会となった。

この度の総会は、依然としてコロナ禍中ではあるものの、近畿のみならず全国より集まり、出席者数が昨年より多かったのは嬉しい。近い将来、コロナ禍が終息し、安心して会員相互が交流できることを強く願いたい。



▷ 日展受賞者紹介の様子

会員活動報告 「浄土真宗正信偈和讃」 作品制作にあたって

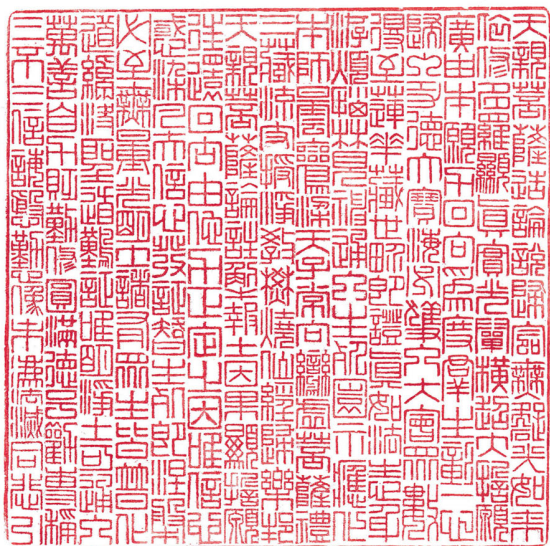
常務理事 松本雅至

本会参与で有機篆会（田原呉山代表）所属の堀口耕碩氏が、長年にわたり温めてこられた「浄土真宗正信偈和讃」の制作秘話についての寄稿文が、作業工程の写真と共に協会事務所へ送られてきました。

浄土真宗正信偈とは親鸞の著書『教行信証』の行巻の末尾に書かれた七言二〇句からなる偈文で、一般には「正信偈」（しょうしんげ）の名で親しまれています。『教行信証』は釈迦の説いた一切経を凝縮し、仏教の真髄を明らかにしたもので、その『教行信証』をさらに凝縮したのが『正信偈』です。つまり『正信偈』を拝読することは、一切経七千余巻を拝読するのと同じ功德があるとされています。

堀口氏は全八四〇字の経文を五寸角（十五cm角）の印材の両面に刻されたそうです。片面だけでも二一〇字となると刻すだけでも大変神経を使う作業ですが、その鈴印の仕方にもとても苦労されたとか。多字数印は公募展等では制作することはなく、布字や奏刀はもちろん鈴印も含めてすべての工程に膨大な時間がかかります。ましてやこれほどの文字数となると想像を絶するご苦労があったのではないかと思います。

その手間を惜しまず努力を厭わず制作された行為に対して畏敬の念を感じ、ここに紹介させていただく次第です。堀口氏が試行錯誤された制作秘話について、詳しくお知りになりたい方は有機篆会もしくは協会事務局まで連絡いただけたらと思います。



▷ 印影（縮小）

第十四回篆書社游藝展 展覧会報告

二〇二二年十一月四日(金)～六日(日)の間、兵庫県立美術館王子分館(原田の森ギャラリー)において、第十四回游藝展を開催致しました。

出品者がそれぞれ、書の大作・篆刻の半切・机上作品の3点ずつを基本としながら、個性の表現に取り組みながら作品発表を行いました。

また、十四回展からの新たな取り組みとして、特別企画 南田陽苑・山崎芳園による二人展を開催し、今後につながる展覧会の新しい形になったように感じています。会期中は、八〇〇名を超える方々に、ご来場を頂きました。ご高覧頂きました先生方からは、心温まるご指導・ご声援を頂きました事を、この場をお借りし、心より御礼申し上げます。



▷会場風景

第二十八回一隅會展 展覧会報告

一月二十七日(金)～二十九日(日)アートホール神戸(兵庫県学校厚生会館)において第二十八回展を開催いたしました。篆刻家協会幹部の先生方にも多数ご来場いただきご観覧していただきました。紙面をお借りしお礼申し上げます。若手グループとして始めた展覧会ですが、既に選歴を過ぎた作家集団になってしまいました。改めて責任ある作品作りに努めなければならないと痛感させられています。



▷会場風景

第八回伍葉展 展覧会報告

一月二十七(金)から二十九(日)までの三日間、みなせ画廊にて開催しました。大寒波到来に交通機関が乱れる中、約二百三十人の方にお越し頂き、紙面をお借りして一言御礼申し上げます。今回初の試みとして出品者全員半切軸五本、という条件付きのもとで作品を制作しました。いつもと違う雰囲気を持つ会場と作品、製作した本人では気付けぬ良さや見え方をお話出来、貴重で刺激的な時間となりました。また、第一回目からずっとお越し頂いている、伍葉の歴史を知って語れる、親しい方も増えてきて、作家と作品の距離が近くなってきたことは本当に作家冥利に尽きることだと実感出来た展覧会でした。



▷会場風景

中国明清の書画篆刻
「梅舒適コレクションの精華」講演会に参加して

副理事長 喜多芳邑

三月五日（日）午後二時より兵庫県立美術館にて、雪心会会長、日本書芸院副理事長の中村伸夫先生による講演会が開催され、書を中心に十五点の解説をいただいた。梅舒適コレクションの解説であることから、尾崎会長をはじめ協会会員の参加も多く、蘭言室で学んだものとしては、興味深く拝聴することができた。文徵明の午門朝見詩は数作あり、梅先生宅一階応接室にあつた本作は軸装だったものを額装に仕立て直したものであり名品のひとつである。

篆社夏期研究会等で拝見した作も多く、呉昌碩四幅の石鼓も会場で改めて見ることができた。講演の最後に、梅先生が有馬グランドホテル、箕面市立図書館のために揮毫された作品が紹介され、講演が終了した。会場で配布されているリーフレット表紙の楊峴の対聯も蘭言室二階を思い出させる。

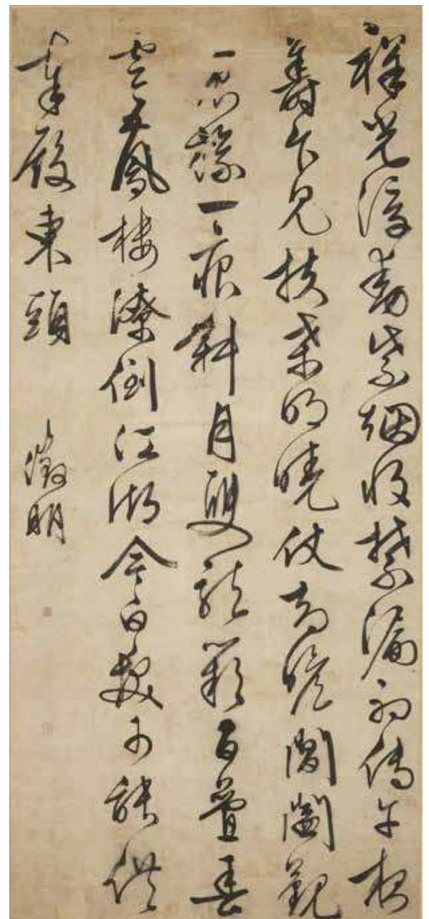
2023年コレクション展1「特集2」
中国明清の書画篆刻 — 梅舒適コレクションの精華 —

From Ming to Qing: Chinese painting, calligraphy and seal carving in the Bai Joleki Collection

2023年1月21日[土] — 4月9日[日]
第1期=1月21日[土] — 2月19日[日]
第2期=2月28日[火] — 4月9日[日]
会場= 兵庫県立美術館 常設展示室6
主催= 兵庫県立美術館
協賛= 公益財団法人伊藤文化財団 [ラウラティワ-神戸](#) (株式会社ハーフ・センテナーリー・モア)
兵庫県立美術館「芸術の朋友の会」

▷「梅舒適コレクションの精華」リーフレット表紙

◁ 文徵明 「行書午門朝見詩」



●第三十九回 日本篆刻展 特別展観「張耕源 書画篆刻作品」
併催第七回日本篆刻家協会学生展

会期 五月三十一日(水) ～ 六月四日(日)
会場 兵庫県立美術館王子分館(原田の森ギャラリー)
授賞式 六月三日(土) ANAクラウンプラザホテル神戸

■展覧会のご案内

- ・書と篆刻夫婦展 書画篆刻クラブ作品展(代表・松田泰軒)
三月二十五日(土) ～ 二十七日(月) 境港市民交流センターみなとテラス
- ・第三十八回随風會書法篆刻展(代表・山下方亭)
四月四日(火) ～ 九日(日) 京都市京セラ美術館
- ・四媛展(出田塘葭・奥田農生・坂本舜華)
四月二十一日(金) ～ 二十三日(日) 兵庫県民会館
- ・第三回雙青展(関踏青・畑間青露)
四月二十八日(金) ～ 三十日(日) ギャラリー翰林堂
- ・第八回寧和展(代表・喜多芳邑)
七月二十一日(金) ～ 二十三日(日) 生駒市立芸術会館 美楽来
- ・明分篆会展2023(代表・黒田玉洲)
八月四日(金) ～ 六日(日) 原田の森ギャラリー 東館二階

※本年度の社中展等、開催予定がございましたら事務所までご連絡ください